

はじめに

「人類の歴史は、感染症との闘いの歴史」とは感染症の専門家が度々口にする言葉です。一度はワクチンや抗生剤等の開発普及により、人類が勝利するかに見えた闘いは、耐性菌の出現、国際交流や自然開発の進展、地球規模での気候変動の影響などから、新興・再興感染症等の流行が繰り返され、WHOが「我々は、今や地球規模で感染症による危機に瀕している。もはや、どの国も安全でない。」と宣言する状況にあります。

その感染症に対する人類の武器の一つが、感染症サーベイランスです。継続して感染症の発生状況を調査、集計、分析することが必要な仕事です。日本においては「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、「感染症発生動向調査事業」として実施されています。京都市においても、「京都市感染症情報センター」は、感染症に関する情報を市内の各保健センターを通じて医療機関から提供を受け、国の「中央感染症情報センター」に送るとともにデータを解析し、週報・月報等として関係部局、医師会及び定点医療機関等に提供し、さらに、衛生環境研究所ホームページに掲載しています。

この事業により、京都市や全国における感染症発生状況が速やかに察知され、早期の対策に結びつけることが可能になります。

平成 24 年は、風しんが全数把握疾患になって以来、最大の報告数となり、平成 25 年にはさらに大きな流行となっています。RS ウイルス感染症は、例年とは異なる時期に、過去最大の報告数がありました。また、A 群溶血性レンサ球菌感染症は過去 5 年平均値を大きく上回る報告数が長期間続きました。

これらの疾患の他にインフルエンザ、感染性胃腸炎、マイコプラズマ肺炎についてトピックスとしてまとめ、平成 24 年の感染症発生動向調査事業報告書を作成しましたので、今後の公衆衛生行政及び感染症予防の参考として御活用いただければ幸いです。

なお、本報告書の作成にあたり、御協力いただきました京都府医師会、指定届出機関及び感染症発生動向調査委員会の諸先生方に厚くお礼申し上げますとともに、今後ともなお一層の御指導・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 25 年 10 月

京都市保健福祉局